

## 地域活性化事業の成功要因 ～しまなみ海道のサイクリング事業を例として～

学生氏名 久保 寛太

指導教員 教員氏名 肥前 洋一

### 研究背景

近年、人口減少や少子高齢化の進行により、地域活性化事業の重要性は高まっている。各地で観光やスポーツを活用した取り組みが行われているものの、短期的な集客にとどまり、持続的な成果につながらない事例も少なくない。特に、複数の自治体に関与する広域的な地域活性化事業においては、関係主体が多様であることから、運営や調整が難しく、成功要因が十分に整理されていないという課題がある。そのような中で、長期間にわたり国内外から高い評価を受けているしまなみ海道サイクリング事業は、広域連携による地域活性化の代表的な事例として位置づけられる。

### 研究目的

本研究の目的は、複数自治体に関与する地域活性化事業が、どのような要因によって成功してきたのかを明らかにすることである。具体的には、しまなみ海道サイクリング事業を事例として取り上げ、広域連携の形成過程や運営体制、事業の評価の在り方に着目し、地域活性化事業における成功要因を整理することを目的とする。

### 研究方法

研究方法として、文献調査とインタビュー調査を組み合わせた事例研究を行った。まず、地域活性化事業や広域連携に関する先行研究を整理し、理論的枠組みを構築した。次に、しまなみ海道サイクリング事業の運営に関わる一般社団法人しまなみジャパンに対してインタビュー調査を実施し、事業の変遷や運営体制、成功の捉え方について把握した。

### 分析結果

分析の結果、しまなみ海道サイクリング事業の成功は、単一の要因によるものではなく、複数の要因が相互に作用した結果であることが明らかになった。具体的には、①単一自治体では対応できない課題に直面する中で、実務的な必要性から形成された広域連携、②しまなみジャパンを中心とした運営主体の存在、③短期的な経済効果にとらわれない長期的視点での事業評価、④自転車というコンテンツが持つ多様性と、それが幅広い層の需要に当てている点が重要である。

### 考察・結論

以上より、地域活性化事業を成功させるためには、完成された制度を前提とするのではなく、実践を通じて連携を深化させていく過程と、事業全体を調整・推進する運営主体の役割が重要であることが示された。